

# 週間市場レポート (2022年2月7日~2月11日)

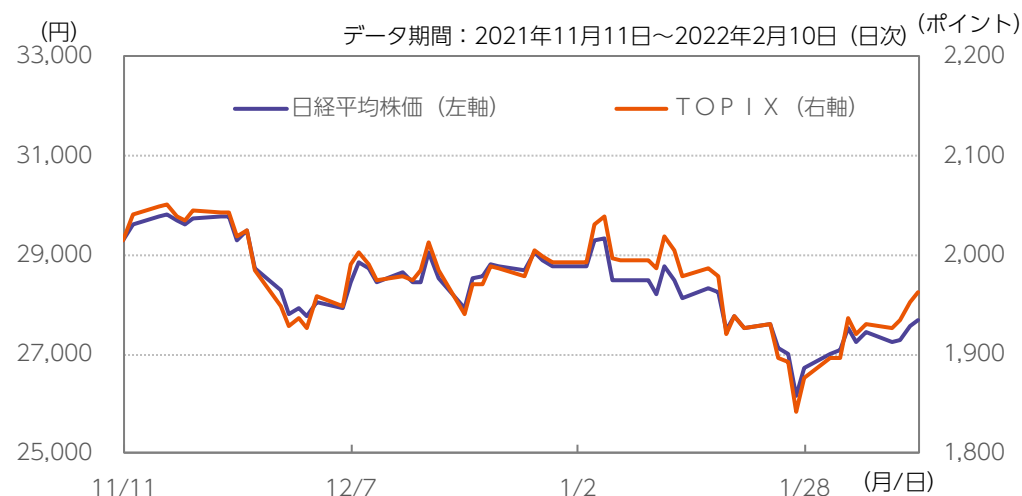
## 1) 先週の市場動向

指数名	国	前週末 2022/2/4	先週末 2022/2/11	前週末比 (%)
日経平均株価 (円)		27,439.99	27,696.08	0.93
TOPIX (東証株価指数)		1,930.56	1,962.61	1.66
ダウ工業株30種平均 (ドル)		35,089.74	34,738.06	▲1.00
S & P 500種指数		4,500.53	4,418.64	▲1.82
ナスダック総合指数		14,098.01	13,791.15	▲2.18
ユーロ・ストックス50指数		4,086.58	4,155.23	1.68
S & P/ASX300指数		7,122.15	7,217.29	1.34
上海総合指数		3,361.44	3,462.95	3.02
MSCI AC アジア (除く日本)※		952.02	965.57	1.42
東証REIT指数		1,929.93	1,935.60	0.29
FTSE NAREIT All-Equity REIT 指数		888.81	872.59	▲1.82
ASX300 REIT 指数		1,615.70	1,584.40	▲1.94
グローバルREIT (除く日本)※		211.11	208.68	▲1.15
日本10年国債 (%)		0.198	0.231	0.033
米国10年国債 (%)		1.909	1.937	0.029
ドイツ10年国債 (%)		0.205	0.297	0.092
英国10年国債 (%)		1.411	1.545	0.134
ドル/円		115.26	115.42	0.14
ユーロ/円		131.96	130.95	▲0.77
英ポンド/円		156.03	156.61	0.37
豪ドル/円		81.53	82.37	1.03
フィラデルフィア半導体指数		3,453.07	3,365.25	▲2.54
WTI原油先物 (ドル)		92.31	93.10	0.86
CRB指数		261.29	263.08	0.68

## 2) 日本の株式・債券市場

### ≪ 株式 ≫

日本株式市場（日経平均株価）は、前週末比で上昇しました。米国のインフレ懸念の強まりを背景に金利が上昇するなか、引き続き、金利上昇時に割高感が意識されやすい高PER（株価収益率）のグロース株が売られる一方、企業決算を材料に業績や収益見通しが良好な銘柄を中心に物色買いが活発であり、週間では前週末比で上昇しました。



出所) ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

※現地通貨ベース \*1 ▲はマイナスを表します。 \*2 上海総合指数は春節 (旧正月) 連休中のため、前週末には1月28日の価格を掲載。

\*3 国内市場は祝日 (建国記念日) のため、先週末には2月10日の価格を掲載。

≪ 債券 ≫

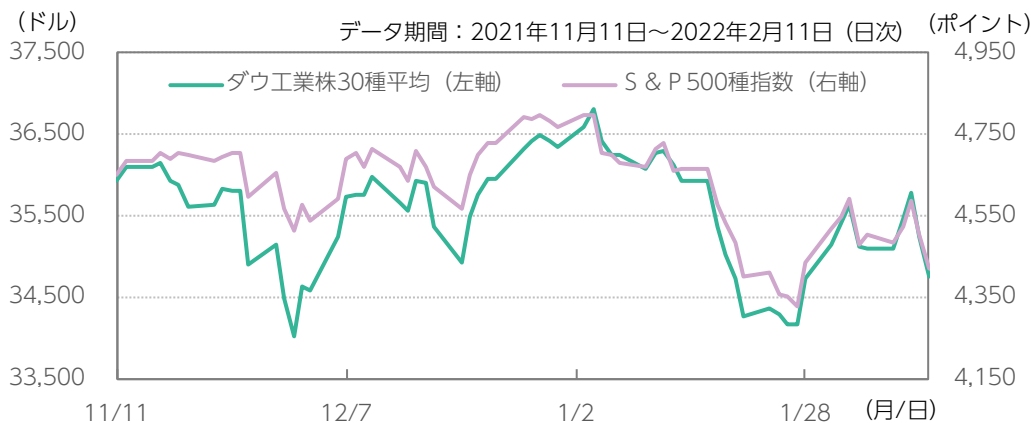
日本債券市場（10年国債金利）は、前週末比で上昇しました。前週末に発表された1月の米雇用統計を受け、米連邦準備制度理事会（FRB）の利上げペースが速まるとの見方から米長期金利が上昇した流れを受け、国内金利も上昇基調となり、週末には、日銀がマイナス金利の導入を決定した2016年1月以来、およそ6年ぶりの高水準となりました。



3) 米国の株式市場

≪ 株式 ≫

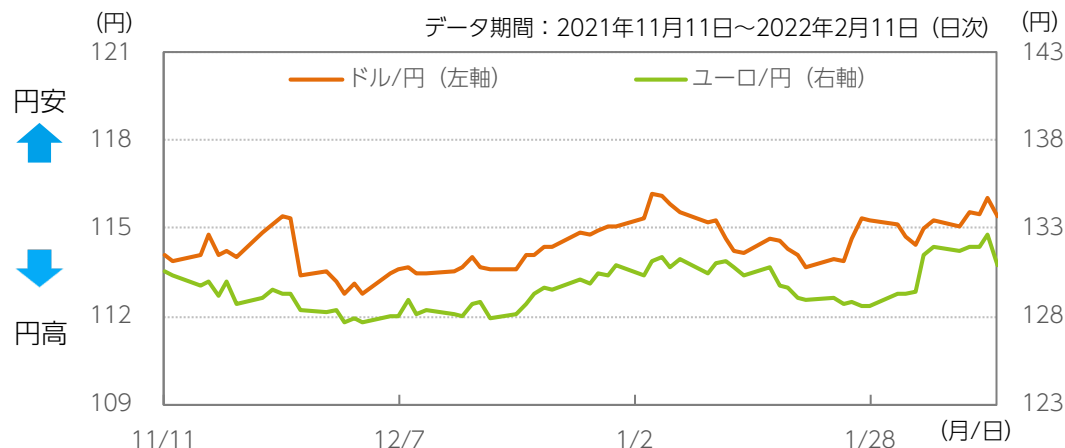
米国株式市場（NYダウ）は、前週末比で下落しました。週前半は、米国の新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向にあることや金融引き締めへの警戒感がやや薄れたことから、高PERのハイテク株を中心に買い戻しが進み、上昇しました。しかし、1月の米消費者物価指数が市場予想を上回る上昇となったことやロシア・ウクライナ間の緊張が高まったことから、木金の2日間で1,000ドルを超える下落となりました。



出所）ブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメント作成

4) 外国為替市場

米ドル/円相場は、前週末比で横ばいとなりました。前週末の1月の米雇用統計を受け、FRBの利上げペースが速まるとの見方から、日米金利差拡大を意識した円売り米ドル買いが進みました。一方、米長期金利の上昇がやや一服する場面では、利益確定目的の円買い米ドル売りが進んだことから、週間ではほぼ横ばいとなりました。



5) 今週の見通しについて

先週の株式市場は、好決算を材料とした物色買いが進み、日本株は上昇したものの、物価上昇による金融引き締め懸念やウクライナ情勢の緊迫化を受けて米国株は下落しました。

10日（木）に発表された1月の米消費者物価指数は、前年同月比で+7.5%となりました。前年同月比で+5.0%以上の伸びが9カ月続いており、市場では3月の連邦公開市場委員会（FOMC）での利上げ幅が大きくなるとの懸念から、株式市場は大きく下落しました。国内では、オミクロン株による新型コロナウイルスの感染は直近では減少しつつあるものの、先週には1日当たりの死者数が第5波を超え、過去最多水準となりました。岸田首相は3回目のワクチン接種を加速するために、『1日100万回』のワクチン接種を実現できるよう取り組むことを表明しました。

今週の株式市場は、金利上昇圧力の高まりや緊迫化するウクライナ情勢を受けて、上値の重い展開が想定されます。ただし、引き続き市場予想を上回る企業決算が確認された銘柄への物色買いは進むものと思われます。

## 【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

## &lt;設定・運用&gt;



ニッセイアセットマネジメント株式会社

NISSAY  
ASSET MANAGEMENT

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506

9：00～17：00（土日祝日・年末年始を除く）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>